

地域学習のための地域映像コンテンツ視聴システムの開発

熊野 圭馬† 大岡 稜‡ 上田 智昭‡ 八重樫理人†

香川大学工学部† 香川大学工学研究科‡

1. はじめに

日本学術会議地域研究委員会は、「「地域の知」の蓄積と活用に向けて」と題する提言[1]のなかで、地域と消費の拡大によって発生した格差問題、環境問題、過密過疎地域問題などの様々「負の遺産」を解決するため、行政組織や研究機関が蓄積した地域の情報だけでなく、日常生活地域、国内の各地域、世界の各地域にわたる地域に生きる人々がはぐくんできた情報、知識、知恵を含む「地域の知」を、地域特有の事情を十分理解しつつ、有効に活用することが必要不可欠であると述べている。また、平成26年度に文化庁が発表した文化芸術立国中期プラン[2]では、映像コンテンツを積極的に活用し、子どもたちが伝統文化や、文化財に親しんだりする機会の充実を図る地域学習の必要性が述べられている。しかしながら、地域学習を支援するために有効な方法は未だ提案されていない。

地域学習の一つの形態として、フィールドワークがある。フィールドワークとは、研究対象となる地域に赴き、現地の実態に則した調査・観察を行うものである。フィールドワークは、「地域を見る視点の変化」や「さらなる学習意欲の喚起」など、通常の講義で行う地域学習よりも高い学習効果が期待できる。

本研究では、地域学習のための映像コンテンツを地域映像コンテンツと呼び、地域映像コンテンツを管理・蓄積するためのデータベースである地域映像ライブラリと、フィールドワークに適した携帯情報端末上で動作する地域映像コンテンツ視聴アプリケーションから構成される、地域映像コンテンツ視聴システムについて述べる。

2. 地域映像コンテンツと地域映像ライブラリ

地域映像コンテンツは、地域のお祭り、地域の昔話、地域の伝統芸能など、地域に古くから関わりあいのある情報を映像コンテンツ化したものであり、地域映像ライブラリは上記で述べた地域映像コンテンツを管理・蓄積するためのデータベースである。多くの自治体で地域映像ライブラリの構築が進められているが、蓄積された地域映像コンテンツを活用する仕組みは多くの場合提供されておらず、今後は地域映像コンテンツを活用する仕組みが求められている。

3. 地域映像コンテンツ視聴システム

我々は、地域映像コンテンツ視聴システムを開発した。我々が開発したシステムは、学習者の位置情報に応じて地域映像コンテンツを推薦し、学習者は推薦された地域映像コンテンツを視聴することができる。

図1は、地域映像コンテンツ視聴システムの概要を表している。地域映像コンテンツ視聴システムは地域映像ライブラリと地域映像コンテンツ視聴アプリケーションから構成されている。

地域住民や他の地域学習者は、携帯情報端末で撮影した映像コンテンツ、映像コンテンツから取り出した緯度経度の情報、動画タイトル、動画説明文、サムネイル画像を地域映像ライブラリに登録する。映像コンテンツに記録されている緯度経度の情報は、映像コンテンツのバイナリファイルを文字列として書き出し、正規表現を用いて文字列検索を行うことで取得した。地域映像ライブラリに登録された地域映像コンテンツは、図2のようにGoogleマップ上にピンとして配置される。ピンをタップすると、地域映像コンテンツの動画タイトル、サムネイル画像、動画説明文が記述されたウィンドウが表示される。

地域学習者は、携帯情報端末を通じ、現在の緯度経度の情報を地域映像ライブラリに送信する。地域映像ライブラリは受け取った緯度経度の情報から、近辺に登録されている複数の地域

The Development of Regional Contents Viewing System for Regional Study

† Keima KUMANO † Rihito YAEGASHI

‡ Faculty of Engineering, Kagawa University

‡ Ryo OOOKA ‡ Tomoaki UEDA

‡ Graduate School of Engineering, Kagawa University

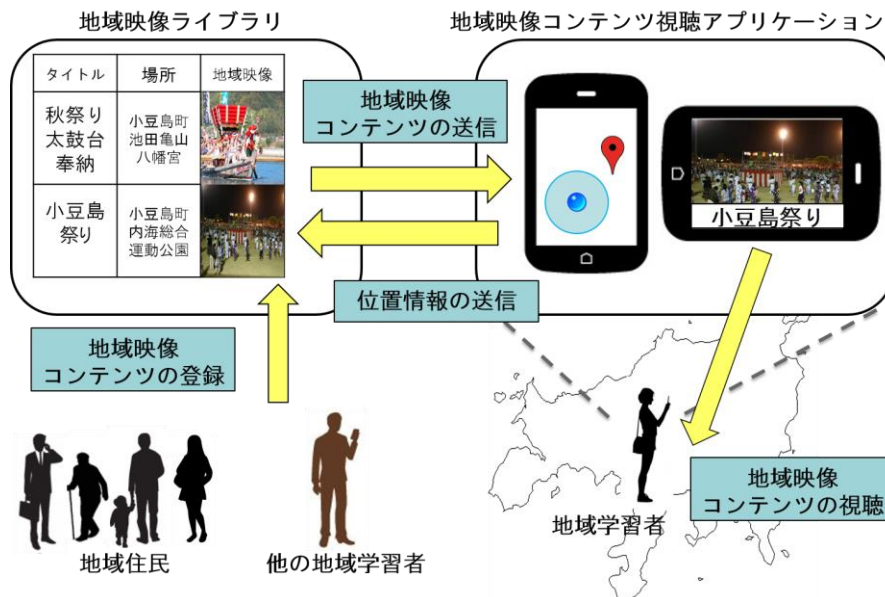


図 1. 地域映像コンテンツ視聴システムの概要



図 2. 地域映像コンテンツ推薦画面



図 3. 地域映像コンテンツ視聴画面

映像コンテンツを地域映像コンテンツ配信アプリケーションに送信する。地域学習者は複数の地域映像コンテンツの中から自分が視聴したい地域映像コンテンツを選択し、地域映像コンテンツ視聴システムを用いて視聴することができる。

4. おわりに

本稿では、地域映像ライブラリと地域学習者の位置情報を用いて、地域映像コンテンツを推薦する、地域映像コンテンツ視聴システムについて述べた。今後は、本システムを用いて、実験及び検証を行う。

参考文献

- [1] 日本学術会議地域研究委員会：「地域の知」の蓄積と活用に向けて、日本学術会議，入手先
 〈<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-20-t60-2.pdf>〉（参照 2015-01-08）
- [2] 文化庁：文化芸術立国中期プラン，文化庁，入手先
 〈http://www.bunka.go.jp/bunka_gyousei/plan/pdf/plan_2.pdf〉（参照 2014-12-28）